第４号様式（第８条関係）

議　事　録

会議名	令和5年度第2回寒川町総合計画審議会		
開催日時	令和5年11月13日（月）　14時00分から16時55分		
開催場所	シンコースポーツ寒川アリーナ　3階　会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	＜委員＞ 小川雅子、篠田寛、森井順子、及川和彦、齋藤正信、髙橋伸隆、内野晴雄、天利幸一、山本哲、菊地端夫、野田春希、小林誠 （欠席者） 相田孝、釼持麻衣、橋口翔、落合裕子 ＜事務局＞ 深澤企画部長 （企画政策課） 関根課長、奥谷副主幹、山下主査、北田主任主事、酒井主任主事、佐藤主事補 （子育て支援課） 宮﨑課長 （保育幼稚園課） 徳江課長 （学び推進課） 芝崎課長 ※　傍聴者１名		
議　題	(1)　審議会委員同士の議論 テーマ「地域で子育てするコミュニティの活性化」		
決定事項			
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	○　開会 １　議　題 (1)　審議会委員同士の議論 テーマ「地域で子育てするコミュニティの活性化」 【会長】皆さん、こんにちは。本日は総合計画審議会、第２回目の委員会となります。年度内、本日も含めて３回を予定しておりまして、８月の１回目。そして、年度末に予定をしています第３回目は、事務局から説明があって、それに対して確認や意見を述べるという形での審議会でございます。		

	その間にあります本日の審議会については、前期からの試みでございますが、総合計画審議会が議論をする、総合計画２０４０が、「つながる力で新化するまち」をまちの将来像として掲げている中で、その計画を審議する我々自体が、つながる力で新化するまちを、審議のやり方も含めて体現をしてみたらいいのではないのかという形で、一般的な審議会では異例の形になるかと思いますが、このような委員同士での議論の場を設けさせていただきました。 後ほどテーマを選定した経緯も含めて御説明があろうかと思います。 本日は、１回目、８月とは異なる雰囲気で、ぜひリラックスをして、関係各課にもおいでいただきました。議論の中で、例えば事実確認をするようなことがありましたら、ぜひお声がけいただければと思いますし、職員の方、あるいは、委員の中には、現在、子育ての当事者であったり、将来の当事者になる人たちもいるかもしれません。議論の中で煮詰まったら、それこそこの中央公園に行って、当事者に声を聞いてきてもいいのかなぐらいの感覚でもおります。 ぜひリラックスした雰囲気で、前向きな、そして、議論する我々がわくわく楽しくなるような議論ができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。 　それでは、お手元の次第に従って議事を進行いたします。 １の議題、（１）審議会委員同士の議論ということで、事務局より、皆さんのお手元、御自宅に郵送された資料に基づきまして、テーマの内容や議論の進め方について説明をお願いいたします。 ＜事務局から配布資料に基づきテーマの内容、進め方について説明＞ 【会長】ありがとうございました。 今、事務局から御説明ありましたとおりで、冒頭に、１年前に同じようなことをやった、その議論がどういうふうに町の中で受け止められて、それがどのように生かされているのかということの御報告がありました。 そのように、今日我々が議論する形が、どのような形で将来生かされるのか、昨年の内容というのは職員のモチベーションということで、それを受け取る側は役場側であったわけですが、もしかしたら、今回まとめる議論の提案の中身というのは、我々自身も受け止める側の立場になるというところもあるのかなと思っております。 とはいえ、言い出しっぺだからやれというようなことではなくて、こういった面白そうなアイデアがあるのではないのかということで構いません。先ほど、わくわくみたいなことを申し上げましたが、やはり何らか新しいことをやっていくときには、そういったものに対して共感がなければ進んでいかないし、それに協力する人の輪というのができていかないといけない思いますので、皆さん自身が一番共感するようなものを考えていただければと思います。 今の御説明の中で、何か確認をするようなこと等ございますでしょうか。 今回、各関係課にわざわざおいでいただいておりますので、ある意味、議論をする際のリソースそして、改めて職員の方に事実の確認だったり、こういうことっ

て寒川でもうやっているのかどうかみたいな形で、一緒に議論に加わっていただければと思います。

議論をしないことということは、全く議論をしてはいけないということではなくて、議論が発散しないように、今回、我々がどういうことを議論するのかという、外縁を示すために書いております。もちろん、いろいろな意見交換の中で触れることもあるかとは思います。よく出てくるというと、兵庫県の明石市のように、お金をたくさんかけて、神戸市から人がどんどん移ってきたようなところもあったりしますが、どちらかというと量の話をするわけではなくて、今回は質の話の議論になるかと思いますし、そのターゲットというのが、小学生や中学生の子育てではなくて、就学児以下の子育ての議論ということです。

職員は皆さん、お若い方もいらっしゃいますので、若い人の率直な意見みたいなのも聞いていただいてもよろしいのかなと思います。恐らく議論する中で、これってどういうことなのと、また出てくると思います。ぜひお聞きいただければと思います。

【小林委員】子育てというところのフォーカスは理解したのですが、大きな課題の中で出生率みたいな話があったので、取り巻く出生率のアップみたいなところはフォーカスしないで、産まれてから子育てするコミュニティみたいなところをメインにしてますね。

【会長】そうですね。恐らく、当事者のＱＯＬが高まれば、結果的にそれが後になって出生率につながってくる、そういうような理解で、まずは現にいる子育て世帯の満足度、あるいはＱＯＬを、我々も楽しみながらどうやって上げられるかみたいな観点から検討すると。結果として、出生率が多分くっついてくるという理解でいいかと思います。

【小林委員】分かりました。

【会長】よろしいでしょうかね。

私は皆さんのグループを回りながらお話をお伺いいたしますので、ぜひ、町の現状の取組など、職員の方にも聞いていただければと思います。

また、８月の審議会以来ですし、なかなか委員同士でお話しすることもないかと思いますので、ぜひ自己紹介から始めていただいて、それぞれがどういうエキスパートといいますか、バックグラウンドを持っているのかということを御紹介いただきながらすると、お話が進みやすいのかなと思います。

それでは、皆さん御準備よろしいでしょうか。今から、グループで４５分ほど、３時半ぐらいまでになるかと思いますけれども、ぜひ、リラックスした雰囲気でお話しいただければと思います。私もどんどん回っていきます。

この４５分というのは、どちらかというとアイデアノックのような、質より量を意識して議論いただくといいかと思います。意見集約の時間はまた別途設けますので、まずは、皆さんの中で、放談でも構わないかと思っていますので、話合いを始めてください。では、よろしくお願いします。

	＜３グループに分かれ議論＞ （１グループ）小川委員、及川委員、内野委員、野田委員 （２グループ）篠田委員、齋藤委員、天利委員、小林委員 （３グループ）森井委員、髙橋委員、山本委員 ＜全体＞ 【会長】それでは、４５分が経過しましたので、これから１０分ほどかけて、これまで出た意見を集約して、後ほどグループとして発表といいますか、お話をしていただく時間をつくりますので、これから１０分、１３時４０分までの時間で、その後、休憩１０分挟みますけれども、グループごとに発表していただきますので、これからの１０分は、いろいろな出た意見をどのようにして発表するのか、どなたが発表するのかということを少しまとめていただければと思います。休憩もありますので、都合２０分ありますので。 ＜グループ内で意見集約＞ ＜全体＞ 【会長】１０分たちましたので、これから１０分間休憩です。３時５０分まで。休憩の後に各グループから発表していただきますので、よろしくお願いいたします。暫時休憩ということで、３時５０分から再開いたします。 （　休　　憩　） ＜全体で各グループの討議内容を発表＞ 【会長】それでは、３時５０分となりました。今から２０分間、各グループで町への提案、あるいはどういった議論があったのかということについて共有できればと思っております。恐らくほか２つのグループの発表を聞く中で、こういう視点もあったのだなというようないろいろな気づきがあると思います。それらを踏まえた上で、再度またブラッシュアップをする時間を設けております。 まずは、各グループでどういう議論があって、こういうことがいいのではないかというような提案があったことについてお話をいただければと思います。 【１グループ・野田委員】１グループでは、町で子育てするコミュニティの活性化ということで、どんな意見が出たかというと、ほかの県とかでは、保育、医療、図書館、行政と、もっと言うと居酒屋さんとか総合的に入っている施設があって、そういうところが地域の子育てするコミュニティが活性化している事例もあるという話とか、あとは、子育てをするに当たって、例えばさっきの支援にあったようなチューリップの会とか、そういうところに、この時間のここを狙っていくというのは、逆に子育てしているママさんたちには難しいし、足もないっていう話とか。あとは、子育てをしたいけれども、やはり情報の流出とか、あとは、本当は子育てを望んでいる方々もいるけど、逆に言うと、あまり密な関係を望んでいない方もいるし、どちらにしても支援が必要だよねというお話がありました。

	あとは、寒川町で子育てをするとなったときに、例えば寒川にずっと住んでいる方だったら、親がいるから、そういう方々のフォローがあるけれども、寒川に移住してきた方々は、旦那さんのお仕事とかの関係かもしれないのですが、そういう方々は逆に孤立しているのではないかという議論をしていました。 こういうのを踏まえて、今、これらのことはもう起きているということで、この議論の中であれば、本当はその前に対応しなければいけないという話になりました。要は、予防ですね。予防をすべきとか、専門的に言うと未病みたいなことだと思うのですが、事前に防がなければいけないのではないかなというところが必要かなという話になっています。その前に対応ができていれば、産む前に、子育てする前に知っている情報とか、居場所があるということが解決できる。 それを解決するのは、理想は新たに、例えば、にぎわい交流創出ゾーンみたいな、そういうものをつくって、その場に行けば何かあるみたいなところをつくるというのは理想だが、今回の議論でいうと、今ある活性化というところの議論とちょっとそれてしまうので、理想論はもちろん必要だと置いておいて、結局今何ができるかということを話したら、やはりゼロイチというのは時間がかかるし、難しい部分もあるので、今あるコミュニティとか、そういうボランティア団体とかをつないでいくことが一つ近道なのではないかなと話をしています。 さっきのお話も出たのですが、例えば子育ての支援でこういうものがあって、ここの場所に行けばというピンポイントを狙っていくと、やはりハードルが高くなってしまったり、本当は行きたかったけど、行けなかったという人も出てくると思うので、ボランティアとか、その辺をやっていく中で、直接的なアプローチは結構難しいから、間接的なアプローチが必要かなという話をしました。例えば野菜を買いに行ったら、子育てとか横のブースにあったら、ふらっと行ってみようだったり、このような間接的なアプローチがあることで、子育てという、すごくダイレクト的なものだけでなくて、横の選択肢の中から、そういうところも間接的につながっていくことも必要なので、ボランティアとか、例えばいろいろな活動している団体とかをつないで、参加者を募って、まんべんなく広く子育てを知ってもらって中核に進んでいければいいのかなというお話をしました。 【会長】ありがとうございます。 いろいろな観点からの議論があって、理想論はあるけれども、具体的にどういうことが、現実的にできるのかということの観点からの、より現実的な提案ということであったかと思います。お話を聞いていると、いわゆる当事者である方もいらっしゃるのですが、寒川の子育て世帯の生活の実態みたいなものを理解した上で、そこにどう食い込むというか。その第一として、寒川の子育て世代は、どこにいて、何をやっているのかというようなことの理解をした上でということになるのかなと、お話を聞いて思いました。 まずは、せっかくですので、各グループの意見を聞いて、恐らくまたいろいろなほかのグループからの気づきもあるかと思います。では、２班いかがでしょう。 【２グループ・小林委員】包括すると、古きよきコミュニティの復権というところになりました。昔は、隣近所のおじさんの顔が分かって、みそ、しょうゆを借りに行ってみたいなところで、今となっては向こう３軒隣のお父さんの顔も知らな

	いというところなので、昔に少し戻ってコミュニティを復権しましょうというところです。 　自治会とかＰＴＡとかあるのですが、関わり合いはしたいという方はいらっしゃると思うのですが、面倒くさいのは嫌で、やはりいいとこ取りだけをしたいという方が多いと思っています。いいとこ取りだけはやはり駄目よねという話になったので、そこで具体的に４つほど案を立てたのですが、割と今日の例でもお母さんが活動されているようなものが多かったので、子育てにはお父さんも大事ですので、私も入っている会があるのですが、おやじの会みたいなもの、寒川町で見つからなかったので、おやじの会というとあれなので、もうちょっと現代的にパパの会みたいな感じにして、男性の参画、あと、そこに出ることによって趣味とかコミュニティの共有拡大みたいなものが臨めるので、寒川にもぜひ広域でのおやじの会みたいなものができるといいねという話をしました。藤沢では、具体的にはもうかなり大きなおやじの会があったりするので、そういうものもベンチマークしてというところですね。 　２つ目に、子どもを見ていてもらいたいというのが、共働きの夫婦とか、あと、今日も学級閉鎖が出ている学校がありますけども、そういう場合に、やはり安心して子どもを見てもらえるところがあるといいという話になりました。あと、やはり寒川町のユニークなポイントにもなりますので、保育園とか幼稚園のＯＢのプロフェッショナルな方を使って、児童館はちょっと町内にないのですが、北部公民館とか南部公民館、センターの遊休部屋を使って、児童館といいますか、見ていただけるようなところをつくるというのが２つ目。 　３つ目に、子育て支援センターです。私も子育てしている中で、あっちの焼き肉屋さんの裏にあるというのを知ったのですが、ちょっとやはりメインに人が集まるところからは離れていますので、一番寒川町内でママとパパとお子さんが集まるのは、あそこの中央公園ですので、子育て支援センターの集中化みたいなものを案として考えました。せっかく体育館があって、少し部屋も空いていると思いますので、ここと、あと、役場のほうの子育て系の部署、あと保健センターもこっちにありますので。現状だとばらばらになっていますので、ここに集積できて、相談ができるような環境、あと土、日でも、当番制みたいにして、困り事、簡単に公園に遊びに行きながら相談できるような場所を、ここの建屋の中に遊休設備も使ってつくればいいのではないかなと思っています。 　あと、寒川で、割とニュースになりましたけど、倉見の mamana.house さんですね。結構、意欲的な取組をしていますので、そういうもののコンセプトの拡大。具体的には、産後のママケアとか、子ども食堂、赤ちゃん食堂みたいなもの、こういうものを行政のサービスの中で子育て支援として拡大できたらいいかなということで、今時点では具体的にあげました。 【会長】ありがとうございます。 　４つの提案ということで、古きよきというところ、古いところに戻るのではなくて、古いところのよきところに戻ろうということの御提案であったかと思いますが、おっしゃるとおり、男性育休というのが今、取得というのが、むしろ義務になりつつある中で、そういった子育ての当事者というものを母親に限定するこ

	とは全くなくなっている意味で、おっしゃるとおりです。 　私自身の経験からも、仕事とは全く関係ない人間関係ができることの楽しさみたいのがあったなというのがあります。そういった親がわいわい楽しくやっている姿を見せるというのは、非常に大事なのかなというのを、私自身の経験からも思いました。ありがとうございます。 　また、子育て支援センターについても、ほかのところの議論の中でも、おっしゃるとおり、ちょっと離れたところにあるということで、そういったものを集約化するということ。加えて、子育て出張相談みたいなイメージなのでしょうかね。中央公園にテント張ってみたいな。どちらかというと、プッシュ型のようなことをやっていくのが大事だというような御提案であったかと思います。 　では、３班。 【３グループ・髙橋委員】子育てコミュニティの活性化ということですけど、まず、活性化するということで、地域で見守りをやっていまして、挨拶をしても、場合によっては親から、知らないおじさんに声かけられても知らん顔するんだよと言われている挨拶をしない子どもが見受けられるということで、そのためには、やはりコミュニティをもっときちっとつくっていかなければいけないのだろうという話合いになりました。コミュニティをつくるにはどうしたらいいかということになりますと、これは自治会という一つの公式の団体があるわけですが、各地域によって自治会に加入をアップすることが必要だろう。齋藤会長がおいでになりますけど、今自治会の加入率が下がっているわけです。その理由はというと、先ほどもありましたように、若者のニーズとして、地域とあまり深く関わりたくないということで、我々のテーブルでは、ちょっとショッキングな言葉だなと感じております。できるだけ自治会に加入するように行政も支援をしていただかないと、若い世帯に理解されていかないのではないかということです。この情報も各御家庭にも伝わっていないのではないかということで、もう少しサポートをお願いしたい。自治会の強化がどうしても必要になりますけど、これを真剣に今後考えていかないと、絆プランの充実だとか、あるいはその他の充実が図られていかないだろうということです。 　もう一つ、自治会から強調していただきたいのは、自助、共助、公助という言葉がよく使われますけど、一般の住民の方々は、何でもかんでも全て公助だというような方が非常に多いわけです。特に新しい方は、それを当然のごとくに言っている。例えば災害があったら、まずは自主防災会でこういうふうにやるのですよと、あるいは自分で最低限３日間なり７日間の備蓄をしておかなければいけないのですよと言っても、二言目には、行政が見てくれるから大丈夫だというようなことがある。何事においてもまず自助努力をしなさいということを、行政も含めて我々自治会等もそれぞれがもっと強調していかなければいけないのではないだろうかということです。サロン活動にしましても、自助、共助のところで大きく広がっていくのではないだろうかということです。 　コミュニティ、イコール自治会の強化だろうというのが我々の結論なのですが、コロナ禍によって大分社会の雰囲気が変わってしまいました。その変化は、やはり痛切に我々メンバーの森井会長も、民生の立場でも感じておりますし、私

	ども社協でも、コロナによって影響が大きかった、その後遺症といいますか、副反応というか、それが非常に大きいということを感じております。これをどう変えていくか、どう乗り越えていくかというのが今後の課題だろうと思います。 　今申しました若い人がなぜ強いつながりを持ちたくないのか、もう少し深く解析していかないといけないのだろうということですが、一つには、やはりデメリットをもっと強調していく必要もあるのか情報がやはり十分届いてないのだろうということで、最近の若い人たちにはＳＮＳを通じてでもいいのですが、やはり隣近所ときちっとお付き合いをしないと、自分にこういうデメリットが出てきますよというようなことも知らしめる必要があるのかなと話をしております。 　あと、先ほど２班のほうからも話が出たようですけど、子どもを預けるということも、安心して預けられるということが大事で、冒頭に申しましたように、挨拶ひとつするなということを親が言っているようでは、なかなか預けるということはできないのだろうけど、本来、昔の日本で言えば、やはりおじいちゃん、おばあちゃん、あるいは隣のおばちゃんたちが、面倒見てやるからいいよ、いいから行ってきなというようなことを気楽に言えたわけです。今は下手に預かって、けがをさせちゃったら困る、あるいは何かトラブルがあって、それに巻き込まれても困るということで心配しているわけです。安全とか、あるいは信頼というものをきちっと与える意味で、見守る方々にも、それなりの保証ではないですけど、この方々だったら安全ですよとか、あるいは信頼できますよというようなことで、例えば、その印として、ビブスを着てもらって子どもたちを見守ってやるとかというような目に見える安心感を、親に与えることが必要かなと思っております。 　ファミリー・サポート・センターというのがあるということで記載されておりましたけど、そういうところにも、もっともっと町民の方々が理解、あるいは知ることが大切なのかな。意外と知らない人が多いのではないのかというようなことで、話をしました。 【会長】ありがとうございました。 　自治会という共助の役割に対して、先ほどのコミュニティの必要性ということについて、若い方というのが、そういったものに対して深い関わりを望んでいない。おっしゃるとおり、ＳＮＳ、彼らにとってのつながりというのは、スマホの中にあって、場合によっては目の前にいる友だちとスマホでやり取りをしていたりとかという、それはそれで一つの新しいコミュニケーションなのかなとも、私なんかはふだん学生と接していて思いつつ、一方で、子育てというのは、生身の人間との関わりが出てくるときに、これからのスマホ世代が親になったときの子どもとの関わり、あるいはほかの世代との関わりというものに、その危惧があるというのは、おっしゃるとおりだと思います。 　そういう意味で、若いときに地域と深い付き合いをしたいと思う人が多くないというのは、多分昔もあったと思うのですね。それが人生経験を重ねていくと、やはり必要だねってなってくるというプロセスを繰り返しているような気もしつつ、一方で、ＳＮＳのような、ほかのつながりができていく中で、地域とのつながりというものの役割というか、相対的に、主観的な必要性というのが薄れて

	いるというような状況が起こっているところもあるのだろうと思います。 　そういう中で、なぜそう思っているのかということを理解、より深く分析をしないといけないでしょうし、自治体の側が、さっき見える化とおっしゃっていましたけども、こっちは知っているだろうと思っているけれども、向こうは知っていないというような情報の格差というのが、お互いの関わりの機会を失わせてしまうというのがよくあることで、たしか協働の議論でも、協働事業の見える化みたいなことを進めているということで、そういった社会的なつながりというものを可視化していくということが恐らく重要だということの示唆なのかなと、お話を聞いておりました。 　今、３つのグループ、それぞれ個性のある提案であったかと思います。これからは、残りの１０分、あるいは状況を見て１５分ぐらい、時間を延ばせればと思いますが、それぞれ、ほかのグループの発表も聞いた上で、改めて再度意見交換をして、軌道修正をする、あるいは追加をする、どっかを削るというようなブラッシュアップの時間の議論を今からしていただいて、その上で、再度、発表をしていただくという形になります。今から１０分、取りあえず、特にほかのグループを聞いた印象もそれぞれお話しした上で、自分たちの提案をどうすればブラッシュアップできるのかという観点から、議論いただければと思います。 では、お願いいたします。 ＜他のグループの発表を受け３グループに分かれ議論＞ （グループ討議終了） ＜全体＞ 【会長】それでは、時間になりましたので、これからの残りの時間で、３つのグループの提案がありましたが、それを審議会全体として、並列の形でもいいと思うのですが、例えばそれぞれのグループの話を聞いて、自分たちの提案というのがほかのグループとの提案に比べてどういう位置づけになるのかということも含めて、あるいは自分たちの提案が、ほかの御意見を聞いてどのように変化をしたのかということも含めて、まずは各グループからまた一言ずつお話をいただいた上で、グループを超えて、最終的にどういう提案といいますか、議論の整理をできるのかということを少しお話しできればと思います。ほかのグループの意見も聞いてという形で何か議論の変化があったかどうか。再度、お願いします。 【１グループ・野田委員】２グループ、３グループのお話を聞いて、２グループの３軒隣の人の顔も知らないという話とか、３グループでも挨拶をしないというところで、コミュニティというか、知人を知らない。それだったら、僕らのグループで話した集える場所がやはり必要というのが、３グループの共通意見としてなるのではないかという話になりました。 　さっきの発表の中で、ほかの県で保健、医療、福祉とかの総合施設があるという一つのロールモデルの話をしたのですが、岩手県にあるオガールという施設があって、それがかなり一つのロールモデルになっていて、実際に成功している事

	例もあるみたいなので、そういうところのお話を聞いて、それをまねするのではなくて、そこは地域柄をうまく利用したと思うので、そういう方針を踏まえて、寒川で何ができるかという議論をしながら進めていったらどうかという話をしました。 【会長】ありがとうございます。オガールというのは岩手県の紫波町という、寒川と同じく町にあるとても有名な複合施設です。ファイナンスの仕組みがちょっと変わっているということで有名なのですが、そこに行けば誰かに会えるというような、非常に町のシンボル性といいますか、凝集性が非常に高い施設として、全国から視察が相次ぐような有名な事例です。おっしゃるとおり、それをまねするのではなくて、どういう要素があれば、そういった紫波町のオガールのような形になり得るのか。もしかしたら、ほかのグループで出てきましたけども、子育て支援センターをここに持ってくるというのも一つ案としてもあるのかなと思います。ありがとうございます。案として非常にまとめやすいまとめをしていただいて、助かりました。 ２班、いかがでしょうか。 【２グループ・小林委員】先ほど、自治会というのをもう一回、ぱっとフォーカス当たる感じが３班からもあったので、もう一回考え直しました。自治会と聞いてしまうと、本当にメリットがあるのかとか、自治会費がかかるとか、見返りはあるのかという感じも、名前変えてしまうとも思ったのですが、やはり自治会というのは大事なので、それをいかに魅力向上させて、メリットがあるかというところの持って行き方だと思うので、そこのところで我が班から上げた、おやじの会とか、ママのコミュニティ、こういうものを、全部それにしてしまうのは、下部組織なのかというのはあるのですが、昔も青年会、婦人会、子供会みたいなものがあったから、おやじの会、ママのコミュニティみたいなものにして、割と幅広い年齢層というものを取り込むのかなというのは思っています。 齋藤さんからもあったのですが、自治会というのもやはり質といいますか、場所によって格差があったりするので、そこのところの質をそういうことで上げていきましょうと。役員が現状として高齢化していって、成り手がなくて、会長、会計が一緒にやってしまうような、本当はあってはいけないような姿も今あるので、自治会という中で正しく若手にも継承していくみたいなことが大事なので、そういう形を取っていきたいと。そこに子育てみたいな要素が加わると、やはり親は子どもが大事ですから、その子どもに重きを置いて参画したいと思うので、ママの会、パパの会みたいにすれば、自治会のコミュニティの中で入ってくるのではないかなと推察しています。寒川は、そんなに大きくないので、北、西、東、南で、おやじ連合会か、ママ連合会か分からないですが、そういうのをつくって、それぞれが集まって情報共有するようなこともありますと。いかにその自治会の中でそういうコミュニティが、メリットのある有益なものであるかは、行政にも指導、支援いただいて、そういうものの加入促進も図るという感じです。 あと、子育て支援センター、ここに出張所なり全部持ってくるなり、結構いいと思っていたのですが、さっき１班のほうから、野菜を買いに行ったら、そこでいろいろな人に出会ったみたいなのがあったら、ちょっとそこは予定調和で申し

	訳ないですけど、にぎわいゾーンみたいな話もあるので、にぎわいゾーンで、どういう形になるのかちょっと夢はありますけども、わいわい市がもっと広がったようなものをイメージすれば、そういうところにお母さんとかが来て、子ども悩みも相談できるような、何か買物をするときも子どもの相談も、ここで集積されて、全部相談できるというようなことも考えられるかなと思いました。 【会長】ありがとうございます。１班のお話とも関わってくる内容で、おっしゃるとおり、例えば２班には天利さんが消防団から参加いただいていますけれども、消防団にも機能別消防団というのがあって、自治会にもそういった機能別ではないですが、セグメント別の、おやじ町内会ではないですが、そういったものが、形から町内会の関わりに入っていくというのが一つあり得るのではないのかということ。 　あと、齋藤さんがいらっしゃるので、寒川にある町内会の中でも、そういった子育て世代が楽しく活動しているところもあれば、そうでないところもある。差なのか、活動の違いというのがあると思うので、うまくやっているところを見せていくことが、自分たちでもそうなりたいと思わせるような形につながっていくのかなというようなお話を聞いて思いました。ありがとうございます。 　３班、お願いします。 【髙橋委員】私どもは、先ほど先生からもお話ありましたように、男の方の子育て休暇、育児休暇、これが法律で定められますよとのことでありましたので、男の人の研修を十分やらないといけないねという話から始まりまして、子育ての必要な時期というのは、ほんの三、四年だろうと。子どもが大きくなれば、自立心を持って、女の子だったら、お父さん嫌いとか言うようになってしまいますので、その前にしっかりと大事な時期をお父さん方が子育てに専念できるようにし、その教育と言っちゃおかしいのですが、研修を十分やっていく必要があるだろう。そのためには、今の方法でいきますと、お父さん方、お母さんもそうかもしれませんけど、情報が十分全てに伝わっているのかというと、ちょっと疑問もある。まして、お父さんに子育ての話で研修やりますとか、あるいはこういう集まりがありますと言っても、なかなか伝わらないのではないか。ＳＮＳという話もありますけど、ＳＮＳも御本人が閉ざしてしまえば、なかなか知る機会がなくて済んでしまうのではないか。例えば、６か月児、１歳６か月児で定期的に全員に健診をやるときがあるわけですね。そのときを見計らってというか、そのときを利用して、ぜひそういう案内も渡したらどうだろう。そういう研修をやっていますということを知っていただくということがまず大事だろうということです。三つ子の魂百までで、３歳までにしっかりとおやじの顔を覚えてもらうようにしないといけないだろうという話が出ました。そうなると、近所のおじさん、おばさんたちの話も、お母さん方、お父さん方がいろいろ話を聞くという機会も増えてくるだろうし、話題も共有されるので、生の声をいろいろ聞いていく。そうすると、最終的にお母さん方が安心して、御近所の付き合いというものが子どもにも伝われば、子どもたちも率先して挨拶をするだろうということで、先ほどのお話の挨拶をしないというところに何とかつながりました。 　自治会の関係も、そういう集まりを集会所でどんどんやっていく、自然発生的

	に、集会所を利用すれば集会所の利用率も高まって、自治会の加入率も上がっていくのではないかというようなことで、ブラッシュアップをしてみました。 【会長】ありがとうございます。 　２班の先ほどの小林さんの話、１班の野田さん話ともつながってくるところで、子育ての議論をするときに母親の議論をしがちなのですが、父親の親としての教育みたいなところにフォーカスをすることが、最終的には地域とのつながりにつながっていくということであったかと思います。 　お話を聞いていてちょっと今思い出していたのは、千葉県に流山市という市があって、お聞きになったことがあると思いますが、あそこは有名なキャッチフレーズをつくっていて、「母になるなら、流山」というブランドキャンペーンをずっとやっていたときがありました。東京の秋葉原から流山まで電車がつながったときに通勤圏としてなって、そういった都心の子育て世代を誘致するときに、ブランド化をするとき「母になるなら、流山」というブランドを一生懸命ＰＲしていたことがありましたが、それに掛け合わせると、「おやじになるなら、寒川」、「パパになるなら、寒川」みたいなイメージですね。 【髙橋委員】我々の話では、「母は産む苦しみを知り、父は育てる楽しみを知る」というキャッチフレーズで。 【会長】なるほど。そういったブランド化を進めることが、親としての自覚と言ったら変ですけど、自然に培っていくものもあると思うのですが、それが地域とのつながりとの強化にもつながっていくのではないのかというような、その起点としてというようなお話であったかと思います。 　共通するような内容もありますし、それぞれの特徴もあると思うのですが、お話聞いていて何か感想というか、こういうふうにまとめられるのではみたいな、何か課長いかがですか。いろいろ聞いていてお話ししたいこともあるのではないのかなと。 【関根企画政策課長】特にこの辺り、にぎわい交流創出ゾーンということで、総合計画にもゾーンとして位置づけているというのがあって、今回いただいた幾つかの意見の中では、子育ての拠点として、ここに集約してはどうだろうかというようなお話だとか、買物、わいわい市などがそうですけど、行ったついでに気軽に立ち寄れるというような、役割として求められているものと、町が進めていきたいなというふうに思っているところが、必ずしも違っていなかったのだな、うまくやっていけば、もっと町がにぎわって活気のある、それこそ子育てしやすいというのが体現できるような、そういうゾーンになる可能性に満ちているなと思ったので、今回、貴重な御提案いただいたかなと思っていますし、それを今後、行政がどんな事業を展開すれば皆さんに満足してもらえるようになるのかというところで検討を進めさせていただければと思いますし、その進捗についても、また今後機会を見て皆様にもフィードバックしていきたいと思いました。ありがとうございました。 【会長】ありがとうございます。 　ある意味、町が計画として進めていこうという方向性と、それを抜きに当事者として議論した結果として、望む方向性というのは１８０度違うようなものでは

	なくて、むしろ同じ方向になっているという意味では、町の立場としては、ほっとした思いもあるのではないかと。部長いかがでしょう。 【深澤企画部長】私が言う前に、担当の３課長に言ってもらったほうがいいと思うのですが。 【会長】どうですか、担当３課長は。 【宮﨑子育て支援課長】今、皆様の御意見をいろいろ聞かせていただいてありがとうございました。今、我々のほうで取り組んでいるいろいろな事業とまた違う観点で御意見いただけたのかなと思っています。今、企画政策課長もおっしゃったように、これから町として取り組んでいく中で、非常に新たな課題の部分のお話をいただいたなと思っていますので、今後に生かしてまいりたいと考えております。ありがとうございます。 【深澤企画部長】私としても、今、関根課長から話があったのですが、このたび総合計画の２０４０で初めて「にぎわい交流創出ゾーン」という形で位置づけました。その中で、ここを一体的に人とにぎわいを寄せようという中で、子育てというコミュニティといった部分も含まれております。そんな意味の中では、かなり中心エリアでの役割というものも相当期待できるなと思っています。今、健康管理センターがありますので、健康、福祉、子育て、こういった政策の融合があることによって、３から４、４が５という形で互恵関係になっている中で、よりよくうまく回っていく大きな可能性があると私も見ています。 　その中で、今日、皆様言われた部分も含めて、安心して預けられる環境、そういった社会、そういったものが皆さんからも求められているのだなと。子育てというのは、私も人の親として、安心できるというのがすごい大きな要素なのではないかなという感じを受けましたので、そういった中で、昔はよくカミナリおやじみたいなのがいましたけど、人とのつながりの中で子どもは育っていくということで考えると、人が周りにいて、みんなが子どもたちを見守る、そういう環境が必要なのだなということで、行政としての役割としては、そういった場を創出していくとともに、皆さんと一緒にそこを運営していく、そんな地域経営が必要なのかというふうに今日また改めて思いました。ありがとうございました。 【会長】ありがとうございます。 　それぞれ１、２、３班のお話というのは、相互に関連をしていると思っておりまして、あと、これは一個人の意見にもなるのですが、例えば子育て世帯、赤ちゃんがいる母親、あるいは妊婦さんみたいな方を、我々が議論するときに、その当事者を、何らかの支援をしないといけない対象、困っている立場として見がちなところがあると思うのですが、一方で、そういった人たちの立場というのは大きな社会的な役割を果たすポテンシャルを持っているのではないのかなとも思っております。 　ほかの自治体の例で申し上げますと、妊婦さんを中学校に招待をして、命の教育といいますか、情緒教育じゃないですけども、おなかを中学生に触らせる、小学生に触らせることをしています。今、一人っ子が多い中で、人間が人間を産むということの尊さとか大変さみたいなものを理解してもらう。まさしくそういった生きた教材になっていただける。そういった教育のために、妊婦さん、あなた

	は大きな役割を果たしているのですよというような、社会的な役割というか、社会的な尊厳を付与するようなやり方、授業というのももしかしたら必要なのかなと思いました。常に我々はどっちかというと保護しないといけない、何かをしないといけない対象として考えておりますし、それがめぐって、例えば赤ちゃんが産まれた後に、中学生というのは日中、平日も地域にいる人たちなので、あのときに会った妊婦さんだ、赤ちゃん産まれたんだという形で、子どもによる緩やかな見守りにつながったりするというようなことをやっていただいているところもあります。そういった視点も、もしかしたら議論の補助線としてもう１本引けるところがあるのかなと思いました。 　これは一意見ですけど、３つのグループそれぞれ共通しているようなところもありますが、一つは、集える場所ということで、先ほどのにぎわい創出交流ゾーンという話とのつながりで、そういったところをいかにつくっていくのかということと、あとは恐らく、さっきも話したのですが、その際に大事なのは、子育て世帯が日中、どこで何をしているのかという実態を我々がしっかり把握していないと、提案のミスリードになってしまうのかな。そういったことを改めてしっかりやらないといけないということが提案の一番基礎的なレベルですね。例えばコロナ禍でよくありましたけど、コロナの頃は、緊急事態宣言が出たけど、例えば東京の歌舞伎町の人出は減らないみたいな、よくニュースがありました。ああいったものは、携帯の位置情報なんかを使って、実はどういう世帯の人たちがどこで何を、どれくらいの時間、滞留しているのかということが今、分かるようになっています。そういった実態を把握した上で、今、１班から３班から出ていたような、その実態に即した提案をしていくということが、それらも含めて提案にするということがあるのかなということ。 　あとは、コミュニティの話と、特に父親の役割、父親に対する様々な政策の訴求、情報をアプローチしていくということが大事だというような、大きく分けて３点ぐらいの話なのかなと思っていますが、いかがでしょう、何か追加すべき議論みたいな提案があれば。どうですか。 【髙橋委員】タイミングの問題というか、時期の問題があると思うのです。要は、私がよく言うのですが、ロードマップですよね。例えば父親の研修なんていうのは、先ほど先生言われましたけども、法制化される段階になっていますので、やはり早急に、寒川がいち早く手を挙げて、そういう教育を始めたというようなこともＰＲになるのかなというふうに思うのですね。場所をつくったりするというのは、時間が相当かかると思うので、そういうものと区分けしていかないと、というふうに思います。 【会長】おっしゃるとおり、タイミング的に早く手を打ったほうが効果があるもの、時間軸の中で考えたい。当然大きな話であれば、整理みたいな話であれば、当然時間がかかるけれどもというような、そういった時間軸の議論、前回も確か、短期にできること、長期にできることというような、時間軸を提案の中に入れることで、少し提案の中身を一体化させるようなことをしました。おっしゃるとおり、そういった時間軸の視点みたいなものも必要かと思います。例えば父親みたいな話というのは、早くやることが効果を生むと。逆にむしろじっくり考えないとい

	けないものも、提案の中にはあったということであったと思います。 　あとは、どういう主体が関われるのかというような整理も、例えば企業が果たす役割が大きいような提案もあれば、行政が果たす役割が大きいような提案もありますが、そこまでは今回、突っ込んだ議論はもしかしたらできなかったかもしれませんが、いかがでしょうか。 　ひとまずは、今いただいた御意見をどういう形で取りまとめるのかということについて、一度、また私のほうと町のほうで話し合って、こんな感じでいかがでしょうかという形で一度皆さんに、今日の議論を文章化するとこんな形になりました、いや、これはちょっと違うのではないかというような御意見をいただく機会をまたつくった上で、最終的には、意見書として私のほうで責任を持って取りまとめたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。 ＜　各委員了承　＞ 【会長】ありがとうございます。皆さんの貴重な御意見が、そういった形で町のほうに投げかけられていく形になります。 　あとは、今日はいろいろな、こういうこともできそうだなというようなイメージが沸いた中で、ぜひそれぞれ皆さんの地区の中でできそうなこと、あるいは先ほど時間軸という、小さな一歩、できそうなことがあれば、ぜひいろいろ実践をしていっていただきたいし、こういったことをやってみたいのだけど、どうなのかということを委員同士で、あるいは事務局のほうに少しお声がけしていただいてもいいのかなと思っております。 ２　その他 　　次回総合計画審議会 　　令和６年２月ごろ開催予定 　　予定内容「寒川町総合計画２０４０」第１次実施計画の修正について報告 　　詳細については後日連絡 ○閉会
資料	令和５年度第２回寒川町総合計画審議会次第 【資料】委員同士の議論テーマ“地域で子育てするコミュニティの活性化”

議事録承認委員及び議事録確定年月日	菊地　端夫（令和５年１２月２２日確定）